

野重才(二大隊)亦ニテ三聯隊(總銃元元係)有彈藥僅ニ(本五共)約五千

軍砲兵隊(連砲百五隊)野重才ニテ大隊(臨海部隊ニテ彈藥(平均僅ニ三三發)リ

以上我が軍、兵力は少く師団一旅団(砲)ニ軍砲兵隊ヲ基幹トスルモ、戰斗參加總人員約十中、右ノ外ハ殆ド戰斗訓練モ古且徳多心衰、入レル沖繩出身、所衛召集者及初年兵ナリ、之、作戦準備期間ハ、

軍、沖繩ニ刻治セラレタルハ昭和十九年三月主要兵團、到着セルハ、全年八月元モ既述、如干経緯ニ依リ、自、作戦準備期間ハ昭和二十年一月以降、約三月ニ過キズ

3. 島ノ廣狹地形ハ

沖繩島ハ縦長(南北)約百三十軒中員(東西)平均十数軒ニシテ、用兵上地域廣大且防禦至難ナル形狀、島嶼ナリ特ニ確保ヲ要スル地域タル島、南半部(島尻国頭兩郡)茲ニ伊江島本部半島地ニハ有テ作戦上、諸要件ヲ考察判断ニ最少限六ヶ師団ヲ必要トセリ、然ルニ實際、兵力ハ一師団半ニシテ任務ニ適合セザルモ甚ニキハ明瞭ナリ、斯クテ島嶼防禦、要訣タル敵ヲ其ノ上陸時ニ於テ果滅スル方全ノ防禦既備ヲ採ル能ハカリシナリ

4. 軍、作戦ニ影響ヲ及セル外力

軍ノ戰略持久戦ニ根本的致命的悪影響ヲ及セル外力ハ既ニ屢述セシキ中、統帥部ノ攻勢強要ナリ、若シ此ノ強要ナカリセバ亦三十二軍、沖繩戦斗史ハ更ニ一段ノ

光彩ヲ加ヘタルニ尚右ノ外全軍將兵、心理ニ強ク作用セルモハ
 沖繩敗ルル日本、前途ハ滅亡シ、予想カ首里戦後退、
 頃ヨリ沖繩ハ敗レタリ祖國、前途ハ明ニ希望シ、認識トナリ此
 認識ガ残存將兵間ニ支配的トナレルコトナリ
 沖繩戦以前、大平洋ニ各戦斗ニ於テハ懸念ハ各中備隊ハ全
 滅ストモ尚彼等祖國最後ノ勝利ヲ得ル死ニ甲斐ヲ有シ
 ルニ及ミ作戦未~~ニ~~於ケル我ガ將兵、心晴ヤ察スルニ餘アリト
 滑~~ニ~~以上綜合判断ニ全軍將兵ガ三月、永キニ日
 悲勝ナル條件下一日ノ間断テ敵ト總戦フル激斗ヲ續ケタル
 其ノ戦斗振リト戦果ハ古今東西ニ話~~ス~~不~~レ~~様ノ業績ト断
 言~~ス~~ニ~~テ~~釋カラザルトコロナリ凡ソ作戦ノ成績ハ希望ノ理想
 諸條件ヲ~~テ~~重~~ニ~~審議ニタル後ニ於テ爲スバ~~ツ~~更ニ~~ニ~~進~~マ~~ル地
 ノ戦史比較对照スルモトニ依リ初メテ~~テ~~當~~ラ~~ズト雖遠カラ~~ル~~地
 位ヲ決定シ得ルモノナリ

最後ニ式ノ国軍ガ国運ヲ堵スル天戦ト稱シ其ノ主力ヲ傾側
 ミテ戦ヘル比島作戦ノ成果、一部ヲ掲~~ヒ~~ニテ参考ノ一助トセシ
 本数字ハ概~~シ~~不~~レ~~確~~シ~~莫~~ク~~信~~ズ~~セラルル米軍側ノ発表ニシテ比島
 作戦ノ諸要件ヲ検討シタル後論議スベキハ勿~~ク~~論~~テ~~リ

参加兵団数	十七師団	白本軍	三十三師団
総人員	三十五万		四十五万
損患	戦死一万二千 戦傷四万二千		戦死四十一万
	計五万五千		

別紙第一 感謝状
 沖島部隊
 同配属部隊

右陸軍中將牛島滿、統率三月二十五日以降沖繩島
 三陸セル敵ニ対シ熾烈ナル砲爆東下孤立セル離島ニ決死
 勇戦スルコト三箇日此間克ク部隊ヲ精強ヲ發揮シ隨處
 二敵ヲ專推シテ之ニ甚大ナル損耗ヲ強要シ以テ中外
 皇軍、武威ヲ宣揚セシミナラズ敵海上勢力カヲ制シ
 我が航空作戦、戦果獲得ニ可與セル所亦大ナリ
 是レ牛島中將統率下嚮軍一体盡忠誠ヲ致シ訓練
 精華ヲ遺感ナク發揮セルモノニシテ其ノ善謀敢斗
 ハ眞ク全軍ノ鑑多ク仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和二十年六月十九日

南西方面軍最高指揮官

在沖繩本島(含本島周邊小島)部隊一覽表

轉用地	部隊固有名	部隊通稱號	轉用年月日
西軍	第三十二軍司令部	球 一六一六	一九三七
東軍	第三十二軍防衛築城隊	一六一六	一九三七
關東軍	第三十二軍集成自動車隊	一六一六	
西軍	第三十二軍舟艇班	一六一六	
西軍	第三十二軍兵器勤務隊	一五五八	一九三七
關東軍	第三十二野戰貨物廠	一八一一	一九三七
關東軍	第三十二野戰兵器廠	一八二二	一九三七
西軍	要塞建築勤務第六中隊	二七七四	一九三三
西軍	要塞建築勤務第七中隊	二七七五	一九三三
	第二野戰築城隊	一〇一五八	一九三七
	第四九兵站地區隊本部	五八九六	一九三七
	陸上勤務第八三中隊	五九〇七	一九三七
現地	特設警備第二二三中隊	五九〇七	一九三七

中部軍	獨立步兵第二七三大隊	球	一四二二	一九九二二
西部軍	沖繩憲兵隊			
西部軍	沖繩聯隊區司令部			
西部軍	沖繩陸軍病院	球	一八八〇具	
	第五砲兵團司令部		九七〇〇	
關東軍	砲兵情報第一聯隊測地中隊		一八八二一	二〇一四
	野戰重砲兵第一聯隊		四四〇一	
	野戰重砲兵第二三聯隊		三一〇九	
	重砲兵第七聯隊		四一五二	
東部軍	獨立重砲兵第一〇〇大隊		一八八〇四	一九九二二
	獨立臼砲第一聯隊		三六六六	
	獨立迫擊砲第三中隊		一二三九六	一九八一一
	獨立迫擊砲第四中隊		一二三九七	一九八一一
	獨立迫擊砲第五中隊		一二三九八	一九八一一
	獨立迫擊砲第六中隊		一二四九九	一九八一一〇

東部軍	陸上勤務第七二中隊		四八五〇	一九八一一〇
	獨立迫擊砲第一〇中隊		一二四四四	一九八一一〇
	獨立迫擊砲第九中隊		一二四四二	一九八一一〇
	獨立迫擊砲第八中隊		一二四四一	一九八一一〇
	獨立迫擊砲第七中隊	球	一二四四〇	一九八一一〇
第一一十四師團				
關東軍	第二四師團司令部	山	三四五〇	一九八八五
滿洲東安	步兵第二二聯隊		三四七四	一九八八五
滿洲東安	步兵第三二聯隊		三四七五	一九八八五
滿洲東安	步兵第八九聯隊		三四七六	一九八八五
滿洲東安	野砲兵第四二聯隊		三四八〇	一九八八五
滿洲東安	工兵第二四聯隊		三四八一	一九八八五
滿洲東安	搜索第二四聯隊		三四七七八	一九八八五
滿洲東安	輜重兵第二四聯隊		三四八八	一九八八五
滿洲東安	第二四師團通信隊		三四八二	一九八八五

備考

- 一 轉用月日ハ沖繩本島上陸年月日ヲ基準トス
- 二 航空關係部隊及各離島（宮古・石垣・徳之島・大東島部隊）ヲ除ク

別紙第三 軍隊区分（於昭和二十年四月一日）

第二四師団 配属部隊

- ✓ 独立機筒銃第三大隊 独立速射砲第三大隊
- ✓ 令 第十七大隊 第三中隊
- ✓ 令 第一大隊
- ✓ 独立高射砲第二十七大隊 第三大隊
- ✓ 令 第二中隊
- 野戰作井 第二中隊 第二中隊
- 海軍根據地隊 令 第二中隊

第六十二師団 配属部隊

- ✓ 独立歩兵第二百七三大隊 独立速射砲第三二大隊
- ✓ 令 第二百七十三大隊 第三中隊
- ✓ 戰車第三聯隊（一中隊欠） 機筒砲第三大隊
- ✓ 獨立機筒銃第四大隊 野戰高射砲第七五大隊

全 第十四大隊
 獨立第三七大隊
 第三三軍防衛築城隊
 特設警備隊 第二三三中隊
 第二三四中隊
 第七野戰船舶廠津繩支隊
 海軍中村防空隊
 海軍砲台一部
 全 第八二大隊
 飛行第四六中隊
 第三九野戰飛行場設定隊
 特設第六聯隊
 野戰作并第十四中隊

獨立混成第四十四旅團

砲兵部隊 (第二步兵隊)
 砲兵部隊 (第三大隊)

獨立砲隊 第七大隊 (甲隊)
 獨立步兵隊
 全 步兵第八大隊
 全 步兵第九大隊
 機砲隊 第四大隊
 重砲兵 第七聯隊
 國頭支隊
 長 步兵隊長 中工大佐

國頭支隊

長 步兵隊長 中工大佐
 步兵隊 (第三大隊)
 獨立砲隊 第七大隊 (一中隊)
 步兵第四飛行場大隊
 特設警備工兵第

独立重砲中隊、一中隊(一少隊)
第三遊軍隊
第四遊軍隊

海軍砲台、一部
特設第一聯隊
所在作戰地域、海軍部隊

軍砲兵隊

長第五砲兵司令官 和田中將

✓ 第五砲兵司令部
✓ 獨立重砲兵中隊
✓ 獨立白砲兵一聯隊
獨立迫撃中隊
全 中二大隊
獨立工兵中隊

✓ 獨立中隊
✓ 野戰重砲兵一聯隊(一中隊)
全 中二十三聯隊
✓ 中二十三野戰高射砲隊司令部
✓ 機砲中隊
✓ 野戰高射砲中隊

軍船舶團

長第十一船舶團長 大木中佐

✓ 第十一船舶團司令部 船舶工兵中隊
第五基地隊司令部 全 中二十六聯隊(一中隊)
海上機進中隊、三戰隊(各基地大隊、整備中隊屬)
全 中三十八戰隊(石全)
全 中二十九戰隊(一中隊)(石全)
特設水上勤務中隊
全 中百四中隊、二少隊
船舶通信第二大隊

特設第一旅團 長 和四九兵站地区隊長 高宮大佐

特設第二聯隊 (和四九兵站地区隊長本部、陸勤才七工、才八十二中隊)

特設水勤才百二中隊 全才百四中隊 (才隊)

軍集成自動車隊 獨立自動車才百十五 (要建定造)

獨立自動車才百五十九中隊

全第三聯隊 (第三二野戰兵器廠、全兵器勤務隊)

全第四聯隊 (第三二野戰貨物廠)

軍直轄部隊

電信才三二八聯隊 第二野戰築城隊

沖繩憲兵隊 沖繩聯隊区司令部

沖繩陸軍病院 第三二野戰防疫給水部

沖繩離島 (除航空) 部隊名一覽表

地區別	固	有	名	通稱	號
大 島 群 美 奄	獨立混成第六四旅團司令部			球	七一六
	獨立混成第二一聯隊			"	七一六
	獨立混成第二二聯隊			"	七一六
	重砲兵第六聯隊			"	七一六
	電信第三六聯隊			"	七一六
	獨立無線第一〇〇小隊			"	七一六
	獨立無線第一〇〇中隊			"	七一六
	獨立無線第一〇〇中隊			"	七一六
	陸上勤務第七一中隊			基	四八
	第三二野戰貨物廠			球	一八八一
	第三二野戰兵器廠			"	一八八一
	奄美大島陸軍病院			"	一八八一
	德之島陸軍病院			"	一〇五九
	特設警備第二二〇中隊			"	七〇七
	特設警備第二二一中隊			"	七〇七
特設警備第二二一中隊			"	七〇七	
第五〇一特設警備工兵隊			"	一八八一	
大本營特務隊ノ一			雙	五八二	
步兵第三六聯隊			球	九七六〇	
大東島支隊			"	九七六〇	
獨立遠射砲第一八中隊			"	九七六〇	

島	特設	特設	特設	球
陸軍	第四	特設	特設	(特設)
氣象	遊覽	備員	備員	(備員)
隊	隊	隊	隊	(備員)
石垣	隊	隊	隊	(備員)
側	隊	隊	隊	(備員)
候	隊	隊	隊	(備員)
所	隊	隊	隊	(備員)

別紙第五

第三十二軍司令部主要職員表(於昭和二十三年三月二十二日)

軍司令官 陸軍中將 午島滿 (陸軍中將渡辺正夫)

参謀長 右 全 長 勇 (陸軍少將北川潔水)

参謀 陸軍大佐 八原博通

全 陸軍中佐 木村正治 (陸軍中佐竹宮真友(元九十五))

全 陸軍少佐 神直道 (陸軍少佐佐野英夫(元九十五))

全 全 藥丸兼教 (陸軍少佐林志房(元八三〇))

全 全 三宅忠雄

全 全 長野英夫 (陸軍少佐折山徹夫(元九十五))

高教副官 陸軍中佐 葛野隆一

